

平成30年9月10日

平成30年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大原スポーツ公務員専門学校福岡校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 大原スポーツ公務員専門学校福岡校 学校関係者評価委員会は、平成29年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

1. 実施日時

平成30年8月7日 14時～15時

2. 実施場所

大原保育医療福祉専門学校福岡校 10階1003番教室

3. 学校関係者評価委員

新開 盛弘 氏	(上川端町四区自治会 自治会長)
伊藤 友記 氏	(九州共立大学 スポーツ学部准教授)
畠中 宏一 氏	(セントラルスポーツ株式会社 アシスタントチーフインストラクター)
田中 誠一 氏	(株式会社にしけい 福岡地区事業部 副本部長)
増井 敦章 氏	(増井敦章司法書士事務所 所長)
高橋 弘司 氏	(自衛隊福岡地方協力本部福岡地区隊 対本部班長)

(事務局)

三好 康弘	(大原スポーツ公務員専門学校福岡校 校長)
品川 勇治	(大原スポーツ公務員専門学校福岡校 副校長)
藤田 隆之	(大原スポーツ公務員専門学校福岡校 教務部長)

4. 重点目標報告

重点目標		現状・達成指標	具体的方策
1	「幸せな就職」を実現するために、実学教育と人格育成教育をテーマとした就職教育の充実	今年度も継続して内定率は十分な成果を上げることが出来ている。学生個人の資質、適性、能力、属性を十分に考慮し、個人別に適した就職指導を実施すること、内定後の実態調査を行い、調査結果を精査の上、更なる満足度向上を図る。	就職活動が早期化されたこと、学生の社会常識・適性能力が低下傾向にあることから、入学直後から就職教育を実施している。社会常識を常に意識させ、学生から社会人へ早期の段階で成長させることで高い内定率を今後も維持する。また、PCP教育を通じて実学を学び、入社から2～3年後を想定した社会性を身に付け、即戦力となる人材を育成に取り組む。
2	資格取得率の向上と実践的な知識習得	資格取得実績は安定的に維持できている。教員は、常に最新の知識、実務の情報とあわせて、高い指導力、講義力を身に付け、合格実績の更なる向上を図る。	企業等と連携し組織的に教員研修を実施し、教員のスキルを向上させる。また、各学科における実践力の向上に引き続き取り組んでいく。
3	学生の地域貢献を通じた社会性の向上	校所在地自治体等、地域活動への参加により、近隣の方々に配慮した行動を身に付ける。また、ボランティア活動を推奨し、積極的に参加させる。	博多祇園山笠への参加や学校と関係する協会を通じた地域活動、ボランティア活動を実施している。今後も、地域活動、ボランティア活動を通して学生の社会性の向上を図る。博多祇園山笠への参加や学校と関係する協会を通じた地域活動、ボランティア活動を実施している。今後も、地域活動、ボランティア活動を通して学生の社会性の向上を図る。
4	退学率の低減に対する対応力の向上	退学率の低減にむけて、最重要課題の一つとして取り組んでいるが、退学率は一昨年は5.2%、昨年は3.8%と低減している。	退学率一覧表の作成や、指導記録表の作成により職員間での情報の共有を図り、退学防止に向けて、職員全体で取り組んでいる。また、昨年は、職員全体に傾聴研修を実施して、職員のスキルの向上にも取り組んでいる。
5	卒業生に対する支援体制の整備	今年度から卒業生サイトを作成し、各種証明書の申込み、同窓会の案内、卒業生に対する案内ができるような支援体制を整備した。	卒業生に対しては、社会人課程申込みの卒業生割引や、卒業生サイトの作成を通じての情報提供を通じて、卒業生の支援を図る

重点目標に対する意見助言	・公務員の合格率や内定実績については、学生の期待を裏切らない結果であるため、今後は入社後の離職率を減らす取り組みをおこなう必要がある。企業、公務員との提携強化を図り、実践力強化に取り組んでほしい。 ・ボランティアも強制的な活動となると本来の趣旨と異なってくるので、学生の主体性を意識した活動が望ましい ・精神的に弱い学生も増えてきているので、匿名の電話相談窓口を設けて、学生の悩みやメンタルヘルスの健全化を図る取り組みを検討することも必要。 ・卒業生サイトの作成は、卒業生に対する学校支援として非常に評価できる取り組みであるため、機能の充実を図り、利用者が増えるように取り組んでほしい。
--------------	--

5. 学校関係者評価・意見

<自己評価> 5：完璧 4：かなり進んでいる 3：普通 2：やや足りない 1：ほとんど進んでいない NA：当てはまらない

基準		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
1	教育理念・目的・育成人材像	1	理念・目的・育成人材像	5	教育理念・目的は書籍や小冊子として全教職員に配布され周知徹底されている。学園の特色の一つが『三段階教育法』であり、これにより他の学校法人の追随を許さない「就職」と「資格取得」の実績を生み、有為な産業人を育成することができている。この資格取得と就職実績をさらに向上させ、専門学校としての基盤を強化するために、社会の動向を的確に見極め、ニーズを調査・分析して事業計画を組んでいる。	適正に運営されている。
2	学校運営	2	運営方針	5	学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、また各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。それらに基づいて部課長会議で詳細を決定し、その内容は全体朝礼で告知するとともに各課で周知徹底している。	適正に運営されている。
		3	事業計画	5	学校の運営方針を反映した事業計画は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく定期的に進捗と差異を確認して必要な手立てを講じている。	適正に運営されている。
		4	運営組織	5	理事会・評議員会で決議された内容は、本部長・校長の下で開催される運営会議で伝達・説明され、部長・課長などの各階層でも適切な意思決定が行われている。また、意思決定が効率的に行えるように、職務分掌と責任に関する規定と各部門・各部署の役割を明示した運営組織図がある。	適正に運営されている。
		5	人事・給与制度	5	要員計画、採用計画、教職員研修計画を通じて、人材の着実な確保と育成が行われている。また、人事・給与に関する規定も整備されていて、人事部および人事委員会を中心にして適切に運用されている。	適正に運営されている。
		6	意思決定システム	5	理事会、評議員会、学園本部、学校と階層ごとに意思決定システムが確立されており、意思決定者による決定内容はイントラネットやグループウェアなどを用いて速やかに伝達されている。	適正に運営されている。
		7	情報システム	5	学校における管理システムの多くはすでに導入されており、現場の業務を正確に迅速に行うことに大いに役立っている。また、ニーズの変化にもいち早く対応できる体勢も整っている。	適正に運営されている。

<自己評価> 5：完璧 4：かなり進んでいる 3：普通 2：やや足りない 1：ほとんど進んでいない NA：当てはまらない

基準		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
3	教育活動	8	目標の設定	5	毎年、教育課程を編成するに当たり、卒業生の内定先企業を中心にアンケートを実施し、教育課程に反映させることで、時代のニーズに合った教育を提供している。 また、各学科の教育目標、育成人材像は、分かりやすい言葉で、できるだけ具体的に示している。	適正に運営されている。
		9	教育方法・評価等	4	教育課程は、体系的にステップアップできるものになっている。定期的な見直しに当たっては、卒業生、近隣住民、関連企業等と協力した検討会によっている。 また、学生に対して定期的に授業アンケートを実施し、講義方法の改善をおこなっている。	適正に運営されている。
		10	成績評価・単位認定等	4	成績評価・単位認定は客観的な方法で常に明確に行っている。毎年卒業生の入社後状況調査を実施することで、教育カリキュラムの見直しに役立っている。	適正に運営されている。
		11	資格・免許の取得の指導体制	5	資格取得には万全の体制を整えている。	適正に運営されている。
		12	教員・教員組織	4	教員の確保については、常勤講師・非常勤講師を問わず、採用・育成・評価の各段階において、目的達成のための体制がほぼ出来上がっている。今後外部企業との連携した研修が課題となる。	適正に運営されている。

<自己評価> 5：完璧 4：かなり進んでいる 3：普通 2：やや足りない 1：ほとんど進んでいない NA：当てはまらない

基準		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
4	学修成果	13	就職率	5	就職希望学生への就職指導においては、教務及び就職専任スタッフが個別面談を進め、学生個人の資質、適性及び能力と属性を十分に考慮した指導を実践して、入社後を見据えた業界・職種への就職が実現できている。 また、それらの達成状況（就職率）は学園本部で管理されている。	適正に運営されている。
		14	資格・免許の取得率	5	単なる資格取得が目的ではなく、就職活動が有利になる資格や資格取得後、就業できる資格を厳選している。資格取得者を多く輩出するためにカリキュラムや指導方法の研究も行っている。今後も引き続き、就職活動に有利になる資格を研究する必要がある。	適正に運営されている。
		15	卒業生の社会的評価	3	スポーツ学科に関しては、入社後の状況を確認しているが、公務員学科については守秘義務という観点から業務の実態調査ができないため、評価の把握が難しい	公務員に関しても、職場訪問や、提携を通じて情報を集約することは可能だと思うので、公務員の関係構築の強化が必要。

<自己評価> 5：完璧 4：かなり進んでいる 3：普通 2：やや足りない 1：ほとんど進んでいない NA：当てはまらない

基準		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
5	学生支援	16	就職等進路	4	就職は教育の大きな目的であり、そのための整備はある程度済んでいる。 カリキュラムの一貫として就職に関する準備が一通り行われている。また、それに伴い早期の内定獲得を実現している。 今後は、内定率100%を目指すとともに、卒業後までを意識した内定後教育の充実が大きな課題となる。	適正に運営されている。
		17	中途退学への対応	4	退学率の低減は入学者の確保と同様、事業部計画における最重要課題の1つとして取組んでいる。学生が退学を希望するきっかけとなる時期・理由は多様化しており、今後は学生指導勉強会の定期的な実施等、担当者の更なる能力向上に向けた取組みが必要である。	精神的に弱い学生も多いため、スクールカウンセラーのような支援をする職員を配置するのも一つの手段である。
		18	学生相談	4	学生相談については、学生のシグナルを担当が見逃さずにキャッチし、その都度対応している。また、節目ごとに全員と個別面接を行い、今後の進路、目標確認、悩みなどを聞きだし対応している。その結果を指導記録にまとめ、上司に報告も行うなどの細やかな指導を実践している。	学生の悩みを聴く傾聴のスキルを職員が身につける必要がある。また、精神的な問題を抱えている学生の、医療機関との連携も重要になる。
		19	学生生活	4	より多くの学生が就学できるように、経済面、環境面などについて支援体制を整備している。今後もニーズに合わせ、必要な支援体制を整備していく。	部活動に関する取り組みは、評価できるので、全国大会出場を目標として、取り組んでほしい。
		20	保護者との連携	4	保護者への連絡については定期的に行っている。特に、規定の家庭宛注意文書が発送される前については確実に保護者への連絡を義務付けている。必要に応じて保護者に来校していただき、面接も行っている。しかし、業務時間内に連絡を取る事が難しかったり、理解を得られない保護者も年々増えているのが現状であり、担任の負担が増している。	適正に運営されている。

<自己評価> 5：完璧 4：かなり進んでいる 3：普通 2：やや足りない 1：ほとんど進んでいない NA：当てはまらない

基準		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
5	学生支援	21	卒業生・社会人	4	卒業生への支援体制としては、担当教員を窓口に関わり合いに 応じて対応している。担当教員と 上司や他の教員、関係部署間の 連携により、可能な限りの フォローアップを行い、卒業生 の満足も得られている。 今年度より卒業生サイトを作成 し、各種証明書の申込み、同窓 会の案内、卒業生に対する案内 ができるような支援体制を整備 した。	卒業生サイトに関しては、有効 な卒業生支援となるため、サイ トの機能充実を図り、利用者を 増やす取り組みが求められる。
6	教育環境	22	施設・設備等	4	施設・設備に関しては、ほぼ十 分な対応ができていると思われ る。今後もこの体制を崩さない ように教職員の意識を高めなが ら維持していきたい。	適正に運営されている。
		23	学外実習、 インターン シップ等	4	実習等や研修の参加にあたって は、事前にガイダンスや説明会 等を設け参加する目的等をしっ かりと伝えている。また、実 習・インターンシップ参加前は トラブルにならないよう校内に おいて受入先を想定し、実践ト レーニングを行うとともに目的 確認を行っている。研修につい ては説明会を多く設定し事故や トラブルを防ぐように努めている。	適正に運営されている。
		24	防災・ 安全管理	4	保険等の加入については十分な ものになっている。また避難訓 練等も行っており、防災の意識を高 める活動を行っている。	近年、天災が日本各地でおこ なっているため、万が一に備え て防災対策に取り組むことは必 要である。

<自己評価> 5：完璧 4：かなり進んでいる 3：普通 2：やや足りない 1：ほとんど進んでいない NA：当てはまらない

基準		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
7	学生の募集と受入れ	25	学生募集活動は、適正に行われているか	5	将来を意識した学生および保護者に対して、的確な情報を伝え、進路選択について過ちを起こさないようにさせたいと考える。また、高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。	適正に運営されている。
		26	入学選考	5	学生一人ひとりに対して、書類選考を必ず行っている。また、必要に応じて面接等を実施し、入学後進路変更がないように事前確認を十分行っているこの体制を維持していく。	適正に運営されている。
		27	学納金	5	教育費に関しては、多くの家庭で優先順位が高い項目になっている。したがって、学費に関しては教育材料費等と常に確認をしながら負担にならない金額を設定するように心がけていく。また、学費納入に対しても滞ることがないように状況を確認していく。	適正に運営されている。
8	財務	28	財務基盤	5	定員充足率は一部のコースで減少傾向にあるものの学校全体としては高い水準であり、財務基盤は安定している。具体的には、キャッシュフロー、消費収支差額比率などの数値も良好な値を示している。	適正に運営されている。
		29	予算・収支計画	4	当年度の重点計画、前年度実績予想との整合性を保ち、健全な予算編成をしている。また、執行については定期的に運営会議などで執行状況を確認している。	適正に運営されている。
		30	監査	5	学校法人監事による業務監査とともに内部および外部の会計監査を受け、法令または寄付行為への遵守と学園の財務の適正性を、確保するようにしている。	適正に運営されている。
		31	財務情報の公開	4	学園全体の財務情報はWEBサイトで公開されているが、今後はさらに多くの情報を公開できる仕組みを構築する。	適正に運営されている。

<自己評価> 5：完璧 4：かなり進んでいる 3：普通 2：やや足りない 1：ほとんど進んでいない NA：当てはまらない

基準		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
9	法令等の遵守	32	関係法令、設置基準等の遵守	4	学園本部が中心となり、法令に対して速やかに対応できる体制を採っており、遵守に必要なものも文書化している。今後は教職員および学生に対して、定期的・継続的に実施できるよう検討を進める。	適正に運営されている。
		33	個人情報保護	4	個人情報保護については情報セキュリティ委員会の下に、各部門・各校に管理者を配して、保護活動を徹底している。また、全国会議で説明会を催すなど、周知徹底を図るとともに対策の実効性を高めている。	適正に運営されている。
		34	学校評価	5	自己点検・評価報告書は申請があれば全項目を閲覧できる体制になっており、WEBにも掲載している。 学校関係者評価は職業実践専門課程の設置学校で実施し、その報告書はWEBに掲載している。	適正に運営されている。
		35	教育情報の公開	3	学校の概要や教育内容はWEBに掲載しているが、教職員に関する情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めていく。	学校の情報公開は、今後も必要性が高まると考えられるため、随時情報を公開できる仕組みを作る必要がある。
10	社会貢献・地域貢献	36	社会貢献・地域貢献	5	従来より附帯教育事業は積極的に行っており、今後も幅広い年齢層で様々な分野の教育サービスを提供できるようにしていく。また、地域への貢献は施設の提供だけでなく学校の特色を活かしたものも提供したいと考えている。	適正に運営されている。
		37	ボランティア活動	5	ボランティア活動は学生の希望者のみ学校所在地自治体や警察等のボランティアに参加している。	積極的にボランティアに参加しているので、今後も引き続き地域貢献を意識した取り組みが求められる。